

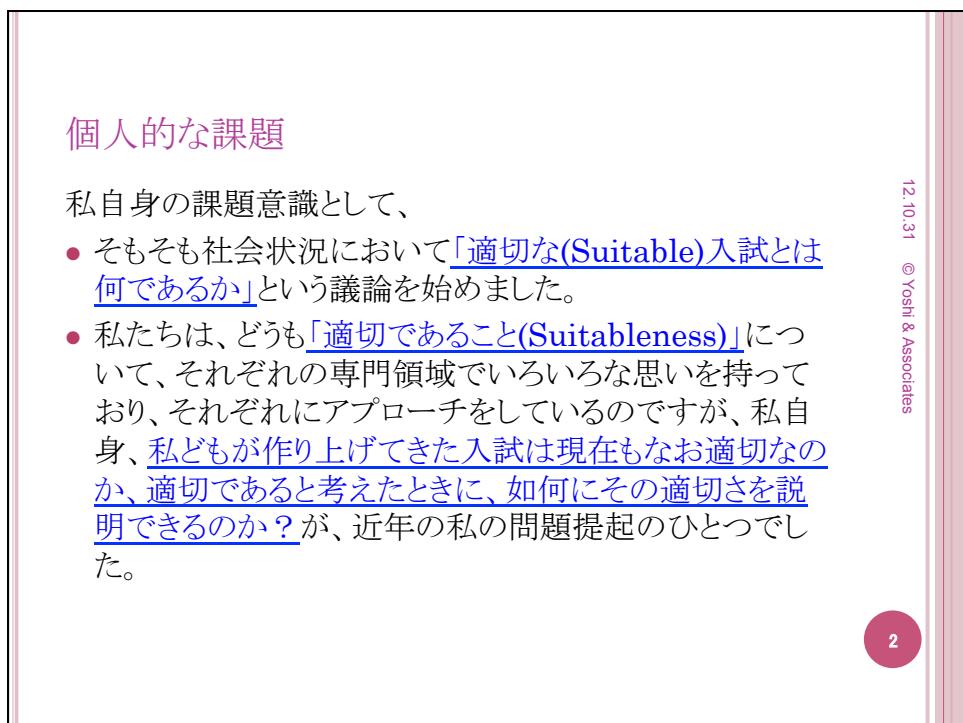


12.10.31 © Yoshi & Associates

高等教育のグローバリゼーションと大学入試

田中義郎
(桜美林学園・桜美林大学総長補佐、総合研究機構長・大学院教授)

1



個人的な課題

私自身の課題意識として、

- そもそも社会状況において「適切な(Suitable)入試とは何であるか」という議論を始めました。
- 私たちは、どうも「適切であること(Suitableness)」について、それぞれの専門領域でいろいろな思いを持っており、それにアプローチをしているのですが、私自身、私どもが作り上げてきた入試は現在もなお適切なのか、適切であると考えたときに、如何にその適切さを説明できるのか？が、近年の私の問題提起のひとつでした。

2

12.10.31 © Yoshi & Associates

その課題意識の発端は、

- 「大学入試」は、何に応えようとしているのか？
- そして、何に応えていないのか？ Why？

同時に、

- 「大学入試」は、何を測ろうとしているのか？
- そして、何を測っていないのか？ Why？

3

大学の教育価値(不易と流行)は？

- 大学の教育で、変化しないものは何か？
- 大学の教育で、変化するもの、日々改善の努力をし続けなければならないものは何か？
- 変化(それは、Innovation? or Change?)の理由は何か？個別の大学／社会の変化、それとも他に？
- 大学に通うことの機能的価値、情緒的価値そして、信頼性は……？
- 大学のステークホールダーは誰？何が彼らの満足度と関係しているか？

4

ミッション(使命)の三つの柱の明文化

- 機会:

私たちにとっての機会とは何か？ ニーズは何か？

- 卓越性:

それは、私たちこそが提供できる機会か？

私たちであれば、より良い行いができるか？

私たちは、その分野で卓越しているか？

私たちの強みに合致しているか？

- コミットメント:

私たちは、心底、私たちの存在理由(レゾンデートル)を信じているか？

12.10.31 © Yoshi & Associates

5

実際、フィールード調査をして見ると、

- 学校選択の主たる理由では、キャリア選択における拡張性が、もっとも重要である。

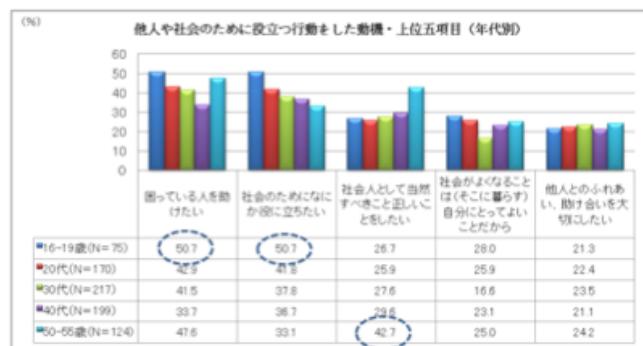
12.10.31 © Yoshi & Associates

6

電通のコーポレート・コミュニケーション局 広報部が出した平成22年度のニュースリリースから

「困っている人を助けたい」「社会のために何か役に立ちたい」がふたつとも40%前後になっています。

これを年代別にみてみると、ちょっと面白い事がわかります。



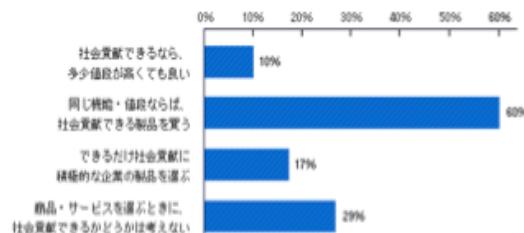
12.10.31 © Yoshi & Associates

7

同じ機能・値段ならば、社会貢献できる製品を買う 60%

野村総合研究所が2009年に面白い調査結果を出していたのでそれを引用してみます。
(2009年11月15日号 第52回 [社会貢献が消費におよぼす影響](#))

図表1 社会貢献活動と消費行動



12.10.31 © Yoshi & Associates

8

大学全入の意味・・・・・

- 希望者が全員入学できるだけの収容力があること。
 - Admission without any selection (選抜なき入学考査)
 - Non-selective Access (選抜のない進学)
 - Open Access (誰にでも開かれた進学)
- しかし、Access without any choice (選択なき進学)はない。皆、何かを選択している。

Visionの交代： 登録から参加・参画、そして次なる準備へ！

- Admission Policy (入学許可方針)
選抜から登録へ（一員となる）
- Curriculum Policy (教育活動方針)
参加および参画へ（活動する）
- Diploma Policy (卒業達成方針)
達成、そして次なる準備へ（到達する）

大学生に期待するイメージ >>>

- Dream Big ! 大きな夢
- Have Fun ! 人生を楽しむ
- Work Hard ! 一生懸命
- しかし、現実は……

日頃、日常生活に特段の不満を持っていない若者たち

>>>彼らにとっての高等教育に何らかの積極的価値
(欲求)を認めうる工夫が必要

12.10.31 © Yoshi & Associates

11

日本の教育の行方 BY BBC (イギリス)

